

令和7年
11月号

地域おこし 協力隊新聞



阿智村産業振興公社
熊谷 萌

今年の秋は本当に働く短かったですね。秋の味覚を楽しみながら日々をまったりすごしていた学生時代が懐かしいです。

私は毎年のことながら天気予報をよく見ていなかったため、衣替えが追いつかず何度か袖の短い服や薄い服の上にダボツとした作業着を着て凍えながら過ごしていました。

衣替えの作業をしながら「来年はいつそ夏専用クローゼットと冬専用クローゼットを横に2つ並べて1年中服を出しておけば楽なのかなあ」なんてぼんやりと考えていましたが、複数あっても邪魔だろうし、きつと来年の今頃も凍えながら過ごしているだろうなって思います。

いっそそれを機に代謝の良い体作りを目指してみようかと思えます。ありがたいことに冬は鍋料理をはじめ

めに干し柿や干し芋、みかんなどの農作物本来の甘味や旨味を多く享受できる季節なのですべてを享受しその分頑張つて動けたら動こうと思います！

最近、秋ごろから今の時期に至るまで嬉しいことがありました。

それは、様々な地域の物販イベントに参加したり、お客さんから直接お話を聞いたりした際に、リピーターさんや口コミを聞いて来てくださった方が増えてきているのが実感できたことです。特にわかりやすいのは、お客さんの一言目が「この村、星が綺麗らしいよ」から「この野菜、去年買って美味しかったのよ」、「今年も来てくれるのを待ってた」など阿智村の店を目当てに来てくれるような言葉に変わりました。夏、秋は特に県外での大規模のイベントが多かったのですが、そんな中でも阿智村を身近に思ってくれる方、好んでくれる方が増えていることが知れて何よりも嬉しかったです。

今ある縁がより強靱になり、最前線で頑張ってくれている阿智の農家さんがもっと頑張れる環境になれば良いなと思いました。



建設農林課
小田 智

阿智村の皆様、こんにちは。

今回は、以前ご報告した「ペットフードの鹿肉ジャーキー事業」の進捗などについてお知らせいたします。智里東地区へ移転したジビエ加工施設は、九月上旬に無事に運営を開始いたしました。

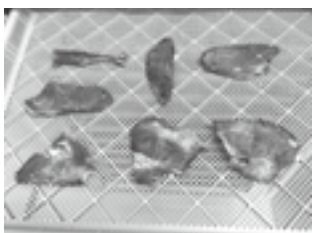
加工施設へは、地元の猟友会の方々のご協力を得て、有害駆除された鹿は、二頭以上も搬入される日もあり、私も解体のお手伝いをしております。

地域おこし協力隊として阿智村に着任するまでは、ほとんど料理をすることもなかったため、解体の際の包丁の扱いには苦労しております。

この時期の鹿は脂が多く、一頭作業をすると包丁に脂が付着して、思うように皮などを切ることが出来なくなってしまう。加えて、包丁研ぎの技術も未熟なため、その点も改善していくことが今後の課題です。解体作業を担当される役場の方は、

とても手際がよく短時間で作業を完了されるので、鹿肉の品質は食肉としてとても良い状態です。

さて「ペットフードの鹿肉ジャーキー」の作成状況ですが、「令和七年度 長野県地域発元気づくり支援金」を活用して導入した乾燥機を用いて試作をしております。テストターをしていただける方に、出来上がったジャーキーの試作品をお渡ししてワンちゃんに食べてもらったところ、概ね良い評価をいただいておりますが、改良すべき点もまだ色々ありますので、品質向上を目指して試作を続けて、年内の商品化を目標にしておりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。





阿智村産業振興公社
山田 正剛

こんにちは、地域おこし協力隊の山田です。秋も深まり、朝晩は少し肌寒く感じる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

先日、市田柿の収穫がついに始まりました。畑一面に実った柿畑の風景が、とても美しいですね。最近の活動は、この収穫シーズンに向けての準備作業が中心でした。

主な活動は、収穫した柿を干すための加工施設の組み立てです。単管パイプを一本一本組み上げて骨組みを作るところから始め、基礎となる水平と垂直を正確に出す作業には苦労しましたが、安全に、しっかり支えられるよう、丁寧に進めました。また、収穫作業を効率的に進めるために、事前に柿畑の草刈りを済ませたり、収穫した柿を入れるコンテナを一つひとつ洗浄したりと、準備を整えました。作物を育てるだけでなく、こうした一つ一つの準備作業が美味しい市田柿づくりに繋がっているのだと改めて実感しています。

そのほか、今月は研修で阿南町の花井農家さんを見学させていただきました。貴重な機会もありました。初めて花卉栽培の現場に訪れ、花卉の品種や営農の説明、経験談を聞けて、とても新鮮な経験となりました。これまでに野菜や果樹の勉強をしてきましたが、花卉にまで目を向けると、選択肢が増え、安定経営に繋がるのではないかと感じました。

これから収穫と加工作業の忙しい日々が始まります。市田柿の生産に少しでも貢献できるよう、一つ一つの作業に心を込めて取り組んでまいります。どうぞよろしく願います。



阿智村産業振興公社
松浦 未洋

あつという間に寒さが増し、季節が秋から冬へと移り変わっています。私が住んでいるところで10月であるにもかかわらず、外気温がマイナス1℃になるという初めての経験をしました。霜の降りた畑、葉についた氷がとても美しく感動しました。

阿智村の地域おこし協力隊として活動して半年がたちました。周りの皆さんのおかげで日々充実した生活活動ができていることを改めてありがたいと感じています。公社でも夏の野菜栽培も終了し、冬の一番の作業である市田柿づくりに向けて取り組んでいるところです。

ビニールハウスの地面を整地し、きれいにシートを敷いた上に、干場を単管パイプで組み、柿剥き機を設置しました。市田柿づくりに使用する様々な、しかも大量の道具もきれいに洗浄しました。市田柿については、南信地方の特産品として有名で、兵庫県に居た時にもスーパーでよく見かけてはいたものの、正直、干し柿自体あまり好きでなく、買ってま

で食べたいとも思ったことがなく、特に手に取ることもありませんでした。(実家の父が自宅の柿を干して自作の干し柿をくれるのですが...)こちらに来て、はじめて市田柿をいただくことができました。とてもおいしく、全くの別物。そのまま食べてもおいしく、クリームチーズやヨーグルトと一緒に食べても抜群でした。おいしい干し柿を作るのをとても楽しみにしながら日々の作業を進めています。

☆庭先においていたスリッパがなくなる事件が発生しました。

はじめはどこかに飛んでしまったかと思って、草むらや風の吹きだまりになりそうな所など周辺を探してみましたが見当たりませんでした。再度スリッパを購入し、一度履いただけで、次の日に片方が。翌日もう片方が消えました。私の熱烈なファンがとっていったのだと思います。夜、私のスリッパを履いてうろつく狐(たぬき?)と出会うのを楽しみにしています。

